

応援の準備 その5

本日から、マスコミ関係のあいさつ回りに出かけます。そんな中吉報が届きました。昨年の卒業生で野球部の一員であった彼が、自治医科大学に合格しました。春季大会の県予選3位決定戦で、さよならヒットを打ったと同じように、一般の入試で自治医科大学合格を決めました。これで、一緒に甲子園の応援に行けますね。おめでとう。本当によくやりました。

いつの時代でも、磐城高校生には驚かされます。それは無謀ではないのかというチャレンジをものにするのです。チャレンジなので、もともと無謀なことなのですが、いつの間にか実力相応のところにとくに人は考えがちなのであり、何とか収まるところへ収まればと安定志向に走ります。ましてや、この2、3年は大学入試そのものが超安定志向が働いて、受験地図は大きく動いているのです。早慶や東大、京大、大阪大等の倍率が下がって、専修、日大、東洋、駒沢等が倍率を上げているのです。すると、早慶に入って先週に落ちたとか、明治に落ちて、東大には入ったとかということがままた起こります。それが、過大に報道されるということが起きるのです。

その影響は国立にも及んでいきます。都市圏の私立大学が難化しているので、地方国立大学にセンター高得点者が回ってきているというのです。

そもそも、そんな地図を塗り替えているのは、受験産業そのものではないのでしょうか。踊らされて、あっちに行き、こっちに行きしていると、本当の部分が見えなくなっていくます。本質をどうとらえ、自分の人生を形作ることが大切なのです。

もっとも、大学に合格するかどうかで人生が変わるという時代でもありません。努力を続けないとすぐに帳がおりてしまいます。どう生きるかという課題に継続してどう向き合っていくかのスタンスが一番大切なのです。逃げ腰、及び腰、砕け腰では戦えないのであります。

しかし、親心として、どこかに入っていればチャレンジもできるので、センター併願の出し方が重要です。合格と一口で言っても、春から夏に季節が変わるときの心構えや、秋口から冬が近づいていくときの心構えはまるで違う対応が必要なのです。心折れそうになる日々はどうそれを乗り越えていくか、薄氷を踏む思いであったことは想像に難くありません。

それでも、ここに行きつけたことの背景には、それを懸命に支えてくれた方々の思いがあったことは間違いありません。お父さんお母さんの支えがやっと実ったことをお祝いしたいと心から思います。

このことにより、次の後輩たちが奮い立ちます。磐城高校生徒はこうやってつながっていくのです。驕らず臆せず悪びれず。甲子園の戦いにも通用すると考えます。